

1. 施設・授業見学
2. 協議委員さまから自己紹介

3. 校長より

本日はお忙しい中お越しいただきありがとうございます。本校校長の旗島です。

横浜南地区にはインクルーシブ教育実践推進校がなく、他地区に行くしかありませんでしたが、本校がインクルーシブ教育実践推進校となったことで横浜南地区の生徒も通えるようになりました。インクルーシブの導入に関して、世界的にも通念的で当たり前のものですし、インクルーシブ教育が本校だけではなく、日本中に広がるのが良いことだと考えます。

テストである生徒が30点を取ったとします。先生も保護者も30点しか取れなかったと表現してしまいましたが、生徒自身が30点も取れたと主張する場合があります。先生や保護者の期待が大きいため、30点しか取れなかったのだと言うのです。あるフランスの思想家は、できる生徒、できない生徒がいるのではない、学びが速い生徒、ゆっくりの生徒がいるだけだと言いました。そういった子どもたちの芽を大切に育てていくべきだと私達は考えています。

みなさまもぜひご協力と応援をよろしくお願いします。

4. 授業の感想

- ・みなさん落ち着いて授業を受けていました。のびのびと活動できていました。
 - ・高校に上がるとスマートフォンを使うため、中学校のうちにどうやってマナーを教えるかという悩みがあります。高校生は自分たちで考えて利用していると感じました。ご指導によるものだと思います。
 - ・落ち着いており、成長を実感しています。いろんな子どもたちがいる中でどんな教育、指導をしていくか日々考えているため、高校の先生方も小学校で様々な個性や発達の違いを持つ子どもたちをどう指導しているか参考にしてください。中学校、高校でどんな授業をしているかを確認する機会があるとうれしいと思いました。
- 教室に入ったときの視覚情報の少なさに驚きました。徐々に変わっていくんだなと思いました。

・今の生徒はスマートフォンで調べ物をしながら、授業に集中していると思いました。遊ばずに集中できるのは、指導の賜物だろうと思います。ニュースでスマートフォン利用による若者の認知力の低下が唱えられていますが、どう考えているか教えてください。

・果たすべき役割、目的に向かって行動できていると感じました。スマートフォンを授業のために使っており、今の子はすごいなぁと思いました。

・授業を見学したことでスマートフォンや電子黒板の使い方が勉強になりました。

(校長からの回答)

→端末を持っていない生徒に対しては、貸出用の端末を準備しています。

端末ではなく携帯電話を使っている生徒が多いですが、簡単なことを調べる時は速いので、ニーズによって使い分けています。

新年度の初めに携帯電話教室を開き、外部講師を呼んでマナーについて指導していますし、本校生徒は指導に従い守ってくれているようです。

貸出用の iPad の数が少ないため、購入費用をクラウドファンディングで募集していますので、ご協力をお願いします。

→ICT ドリルは本校でも導入しており、長期休業中に課題として利用することが多いです。教員の働きかけ方なども工夫しながら ICT ドリルを利用しております。

→フロントゼロ活動をしているため、前方の情報は少なくしております。発達段階で状況は異なりますが、他校と比べても本校は貼っているものは少ないと思います。必要な掲示は教室横のホワイトボードを利用しています。

→認知機能については、スマートフォンに頼りすぎると逆に学力が落ちると言われていますが、調べて自分のものにする力がつくように指導していきたいと思います。

→最初に見学した地理の授業にあったグループワークは、探究する姿勢が育っていると思います。自分たちで課題を発見していくことで、主体性が育ちます。そして、思考力、判断力を育てていきたいと考えております。

・小中学校でも端末を使っているが、小中高生で使い方の違いはありますか。
英語は数年前から小学校低学年で始まっていますが、英語の学力の質はどうなっていますか。

(校長からの回答)

→いままで端末はパワーポイントなどを作ることにしか使っていませんでしたが、最近ノート代わりに使う生徒が増えています。パソコンを文房具のように使ってほしいというのが文科省のねらいで、それに近づいていると感じます。

(教頭からの回答)

→端末の活用という意味では、コロナ禍の時期に導入された当初は大変でしたが、年を重ねるごとに中学校で利用していた生徒たちが増え、ログインやシステムの説明が不要になりました。

英語については、ICTを使ったからなのか早期教育によるものなのかはわかりませんが、グループワークや導入が年々スムーズになっていると感じます。取り組みはどんどん良くなっています。

・ノートの代わりに黒板の写真を撮るなど、自分に合った使い方を自分で考えていてすごくいいと感じました。生徒同士がお互いにディスカッションしながら進めており、素晴らしいと思いました。

5. 令和7年度の目標設定について

・校長

1) 教育課程・学習指導について

授業は教科担当が評価について理解して進めることができます。ルーブリックで生徒に目標を意識させることで、生徒の学習意欲を高めることができていると感じます。自学自習に向けて教員がどのようにアプローチしていけばいいかを考えていきます。

学校行事について、生徒の主体性を無視しないようにどこまで支援したらいいかコントロールしていけるようにしたいと思います。

2) 生徒指導・支援について

教育相談についてフロー図を作成し、組織として対応できるように考えて行っています。困っている生徒の情報をいち早くキャッチするため、月に一度情報交換会を行っています。

3) 進路指導について

昨年度は国立大学へ進学する生徒もあり、進学実績も着実に伸びてきています。どういった進路が生徒にとって幸せなのかという個々に対する指導を考えております。

4) 地域等との協働について

常に地域に対して社会貢献する気持ちを持つようにと指導しております。社会に対していろいろな意味で貢献ができるように、地域貢献活動を計画していきたいと思えます。

また、ボランティア委員会を中心に、地域のボランティアや行事に参加し、読み聞かせを行ったりと度々地域にお邪魔させていただいております。

5) 学校管理・学校運営について

避難訓練は、オンラインでの避難訓練が続いていましたが、実際に校庭に避難する訓練ができるようになってきました。災害はいつ起こるかわからないので、様々な形態の訓練を考えております。

生徒の目標となる教員であるように、教員が事故不祥事を起こさないように研修を重ねています。世の中の状況にあわせて意識をアップデートしていきたいので、おかしいと思うことがあればお声掛けいただければと思います。

6. 意見・質疑応答

○教育課程、学習指導の横断的な学習について

- ・小学校ではすべての教科を1人の教員が教えるのでやりやすいが、他教科同士でどうやってすり合わせているのでしょうか。
- ・教育課程で問われている資質について、委員会活動などでも小学校の学びが生きています。教科で内容を共有するというよりは前に学んだことを自分なりにどう使うか、どう引き継いでいくかが中学校での学びです。

→教科等横断的な学習とは、身につけさせたい「能力」「資質」等を学校全体が意識して、すべての教育活動においてその育成に取り組むことです。本校ではまず行事等の目標に「福祉マインド」をはじめとした学校教育目標を入れるようにしています。体育祭や文化祭等の行事、授業・部活動、これらの中でどうやって「思いやりの心」や「社会実践力」を身につけるか、教員一人ひとりが日々考え実現に向けて努力を重ねています。（校長より）

○地域との協働について

- ・いろんな意見や考え方を取り入れるため、若い人が地域にもっと入ってほしい。そのためにはどうするかと思っているところです。近く行事もありますし、南陵高校の生徒にもお願いしたいと思っています。

7. 終わりに（校長より）

本校がよりよい方向に進めるよう努力していきたいと思っておりますので、何かありましたらお声掛けいただければと思います。皆様からのお声は県に届けて、学校をよりよい方向へ導いていきたいと思っております。

* →は質問の回答です。